



2 こころざし教育

幼児期の子供は、何かができると「見て、見て！」と大人の注意を引き、認めてもらおうとします。そんな時、「上手だね！」「すごいね！」とほめると、もっと頑張ろうとします。また、努力や意欲も認めることで、幼児は自分が好きになり、自信をもつようになります。「こころざし」の芽生えは、自尊感情を高める声掛けから始まります。一方、してはいけないことは見逃さず、毅然と叱ることが大切です。

幼児期の教育で、こころざし教育を進めるにあたっては次の3つの視点から指導をしていきます。

幼児期のこころざし教育の視点

1 人を敬う心

幼児の内面の理解

幼児の行動や表情から、内面を理解していきます。相手に対して優しい気持ちをもつには、まず、自分自身が満たされていることが必要です。人間関係をよく見て援助します。

様々な立場

リードする・リードされる、手伝う・手伝ってもらう、教える・教えられるなど、様々な立場を経験できるようにします。

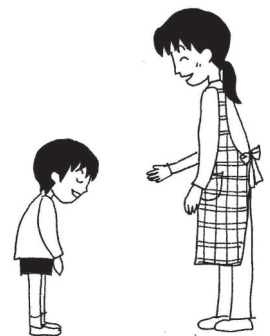
周りの人への関心

家族、保育士・教員、友達、地域の方など身の回りの人のしていることや、その人の気持ちなどについて、折に触れ気付かせるようにします。

気持ちの表現

日頃から実体験を通して感謝の気持ちを感じられるようにするとともに、それを様々な形にして表現する心地よさを積み重ねていくようにします。

園での保育士・教員の姿は、幼児のモデルとして重要な意味をもっています。保育士・教員が他の幼児にかかわっている姿を見ることも、幼児にとっては大切な環境としての意味をもちます。例えば、あいさつの口調や立ち居振る舞い、言葉の掛け方や抑揚など、幼児は保育士・教員のするようにします。保育士・教員が人を敬うかかわり方をすれば、幼児もそのようなかかわり方を身に付けていくでしょう。その意味で、保育士・教員は自分自身の周りに対するかかわり方が幼児に大きな影響を及ぼすことを認識する必要があります。意識的に言葉や形にして表していくことが大切です。保護者の方々に行事の準備などをお手伝いいただいている時に、「いつもありがとうございます。」と感謝の言葉を掛ける保育士・教員の姿を見て、幼児も感謝の気持ちを身に付けていきます。



2 身に付けさせたい言葉・態度

身に付けさせたい言葉

- ・おはようございます
- ・いただきます
- ・いってきます
- ・ありがとう
- ・おやすみなさい
- ・ごちそうさま
- ・ただいま
- ・ごめんなさい

身に付けさせたい態度

家族や先生に対して

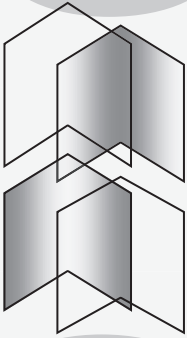
- ・あいさつをする
- ・相手の目を見て話をしっかり聞く
- ・教えに素直に従う
- ・「はい」と返事をする
- ・わがままを言わない



交流活動でのあいさつ

* 「こころざし教育副読本 教師用指導書」より

5歳



地域の方と

園外保育などで出会った方や園にいらしたお客様とあいさつしましょう

友達同士で

園ではもちろん、他の場所で友達に出会ったときもあいさつしましょう

先生と

朝、出会ったときや帰りのときなど、先生とあいさつを交わしましょう

家族と

「いただきます」「いってきます」など、家庭でもあいさつを習慣付けていきましょう

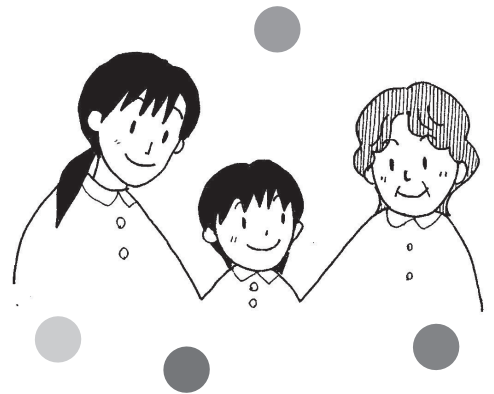
自分から進んであいさつしましょう

相手を見てあいさつしましょう

2・3歳

あいさつを交わす心地よさを感じるようにしましょう

日々の園生活の中で保育士・教員が保護者や近隣の人々と気軽にあいさつを交わしたり、感謝やお礼の気持ちを言葉で伝えたりする姿を示すことで、幼児もあいさつを交わす心地よさと大切さを学んでいきます。親しみをもっていろいろなあいさつを交わせるようになるためには、何よりも保育士・教員と幼児、幼児同士の間で温かなつながりがつくられていることが大切です。あいさつには朝や帰りのあいさつのほかにも、返事や感謝お礼の気持ちを伝えること、相手のことを心配したり、元気になったことを喜ぶことも含まれます。特に幼児期には家庭での習慣付けなど、園と家庭との連携が大切になります。次第に自分からすすんであいさつできるようにしましょう。



3 人の役に立つうれしき・やりがい

役割を果たす経験

当番活動や異年齢児とのかかわりの中で、一人一人が役割をきちんと果たせるようにします。全体・グループともに個の役割を押さえていきます。

成長を感じる機会

自分の成長を具体的に実感できるようにし、何かができるようになったということだけではなく、心の成長も感じられるよう言葉を掛けていきます。友達の成長も喜び合うようにし、喜びに共感します。

感謝の気持ち

家族、保育士・教員、友達、地域の方など身の回りの人のしていることや、その人の気持ちなどに折に触れて気付かせます。自分の成長を感じるとともに周りの人への感謝の気持ちももてるようにします。

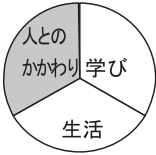
小学校・家庭との連携

小学校の生活や小学生とのかかわりを通して、入学に期待をもてるようにします。保護者の悩みを聞いたり、入学に向けての情報を伝えたりし、保護者自身も安心して入学が迎えられるようにします。

幼児は「○○してあげる。」という言葉を好んで使い、何かを手伝いたがります。相手に喜ばれ、よくやってくれたと感謝されることによって、幼児は自分が有用な人間であることを自覚し、もっと人の役に立ついろいろなことができるようになると思うようになっていきます。家庭や地域において幼児が兄弟姉妹や近隣の幼児とのかかわる機会が減少している中で、園において同年齢や異年齢の幼児同士が相互にかかわり合い、生活することの意義は大きくなっていきます。3、4歳児のお世話をしあげる5歳児の姿を見て、3、4歳児が、「自分も5歳になったら、ああいうふうになりたい。」とあこがれを抱くような異年齢の幼児同士のかかわりをつくっていくことが大切です。先の大震災の後、ボランティアの方々へ感謝する気持ちは幼児の中にもしっかりと育っていたという報告があります。人のお世話になったという感謝の心が自分も人の役に立ちたいという気持ちを育てていくことにつながっていきます。



当番活動



重視する内容 こころざし教育 (例)

「あいさつ、返事は元気よくしよう」

3歳児 7月

《ねらい》

○保育者からあいさつを受けあいさつを返そうとする。

《経験させたい内容》

○保育者からあいさつを受け、保護者と一緒にあいさつをする。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《活動の概要》

- ・保育者と保護者が気持ちよくあいさつを交わす姿を見ることで、子どもたちもあいさつを身に付けていく。
- ・登園時には、意図的に5歳児の「あいさつ隊」を作り、保育者と一緒に毎朝玄関に立ち、あいさつをする。あいさつをする気持ちよさを保護者も感じられるようにする。
- ・食事の際や降園時にも、あいさつをかわす心地よさを感じられようにする。

《環境》

玄関



「あいさつ隊」と朝のあいさつ

「〇〇ちゃんとおかあさん
おはようございます。」

保育室



みんなで「いただきます」のあいさつ

あいさつの前に保育者は「ご飯、おかず、お汁、デザート、お箸はありますか？」などと確認をしましょう。

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>【登園時】-----</p> <p>②保護者と登園してきた園児は保護者があいさつする姿を見てあいさつをする。 すでに登園している子どもがその様子を見て「○○ちゃんおはよう。」と言う。</p> <p>④クラスに入り、担任や友達に「おはよう。」と言われ「おはよう。」とあいさつを返す。 「おはよう。」と自分からあいさつをして入室する子どももいる。それぞれ登園時の支度をします。</p> <p>⑥仕度を終えた3歳児の中には玄関に行き、「あいさつ隊」のそばに立ちあいさつをする様子を見ている子どももいる。</p>	<p>①「<u>あいさつ隊</u>」(3~4人)の5歳児と一緒に、登園してくる親子に笑顔で元気よくあいさつをする。</p> <p>③担任が保育室で「○○ちゃんおはよう。」と笑顔で親しみをこめてあいさつし、子どもたちを受け入れる。</p> <p>⑤「<u>元気なおはようは気持ちがいね!</u>」など、あいさつをしたときの心地よさが感じられるような声がけをする。</p> <p>⑦あいさつをする様子を見ている3歳児に「みんな元気におはようって言ってるね。」「ごあいさつ上手だね。」など声を掛ける。</p>
<p>【食事時】-----</p> <p>②手洗い、うがいを済ませテーブルに着く。</p> <p>④みんなで「いただきます。」を言って食べる。</p> <p>⑥食事が終わったら「ごちそうさま。」のあいさつをみんなでする。</p>	<p>①配膳をする。</p> <p>③作ってくれた人にありがとうの気持ちで「いただきます。」や「ごちそうさま。」のあいさつをすることを子どもに伝える。</p> <p>⑤食事が終わった幼児に「<u>ごちそうさま。</u>」のあいさつを促す。</p>
<p>【降園時】-----</p> <p>②迎えに来た保護者と一緒に保育者や友達に「さようなら、またあした。」などあいさつをして帰っていく。</p>	<p>①降園する幼児に笑顔で、「<u>さようなら。</u>」とあいさつをし、明日の登園に期待をもてる言葉を掛け見送る。</p>

重視する内容 **こころざし教育**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 保護者や保育者など周りの大人があいさつをしている姿を毎日見たり、雰囲気を感じ取ったりすることで、自然にあいさつが身に付いていく。大人が率先して見本となる姿を見せるようにする。
- 保育者が子どもたちに心地よいあいさつをすることが子どもたちのあいさつを促す。

◆小学校につながる点

- あいさつを受けたり返したりすることに気持ちよさを感じるようになり、あいさつが自分のものとして身に付いていくことにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

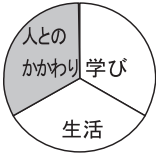
こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 こころざし教育 (例)

「元気にあいさつをしよう -あいさつ運動を通して-」 4歳児 5月

《ねらい》

○保育者や仲のよい友達とあいさつをする。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

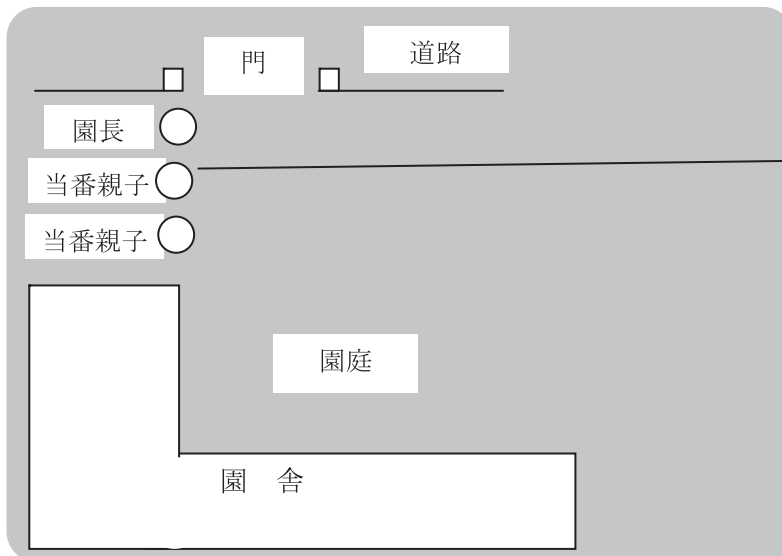
《経験させたい内容》

- ◎元気な声であいさつする心地よさを味わう。
- ◎5歳児のあいさつのモデルを見て、自分もあいさつしようとする。

《活動の概要》

- ・登園時、「あいさつ当番」の5歳児親子2組が、園長と一緒に門で登園してくる園児と保護者に朝のあいさつをする。
- ・「あいさつ運動」は、毎月、月始めの一週間、交代で行う。順に4歳児、3歳児も行う。

《環境》




登園してきた親子から、よく見える位置に立つ。



「あいさつ当番」とあいさつ

「あいさつうんどう」と書いた手作りたすきをかけることで、当番の幼児が、当番をするうれしさを感じたり、見ている幼児も「やってみたい。」というあこがれの気持ちをもったりできるようにする。

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>②登園する。</p> <p>③朝のあいさつを園長先生や「あいさつうんどう」当番の親子と交わす。</p> <p>当番の5歳児の姿を見て、元気にあいさつする。</p> <p>保護者と一緒に声を出してあいさつする。</p> <p>当番をしている5歳児が知っている子どもであることに気付き、笑顔になったり手を振ったりする。</p> <p>保護者から「園長先生に聞こえるぐらいの声であいさつしよう。」「あいさつしなさい。」などと促されてあいさつをする。</p> <p>当番の幼児をちらっと見るが、元気にあいさつはできない幼児もいる。</p>  <p>⑤身支度を済ませた後に、「あいさつ当番」の横に立ち、同じようにあいさつする幼児もいる。</p>	<p>①「あいさつうんどう」と書かれたたすきをかけることで、「あいさつ当番」であることを意識したり、みんなからも分かるようにしたりする(当番親子)。</p> <p>④「〇〇ちゃんおはよう。」と名前を呼んで、<u>子どもが親しみをもってあいさつができるようにする。</u></p> <p>「〇〇ちゃんが来たよ。元気な声であいさつしようね。」と当番の子どもの意識を高める。</p> <p>当番の子どもには、「当番の人があいさつしてくれてみんながうれしそうだったね。」と当番の子どもの姿を認め、意欲をもたせる。</p> <p>当番にあいさつを返している子どもには、「<u>元気な声だったね。</u>」「<u>お母さんと一緒に言えたね。</u>」「<u>よく聞こえたよ。</u>」などとあいさつする姿を認める。また、「<u>にこにこ顔であいさつしてくれたから、うれしいな。</u>」と保育者が感じた心地よさを伝えたりする。</p> <p>元気にあいさつができない幼児には保育者が個別に声をかける。</p> <p>⑥「あいさつ当番の人みたい。」「早く当番をやりたいね。」と5歳児にあこがれる4歳児の気持ちを受け止めたり、認めたりする。</p> <p>⑦主体的に「あいさつ当番」を手伝う子どもには降園時などに、「どんな気持ちだったか。」を発言させる等、全体に紹介することもよい。</p>
<p>【翌日】 -----</p> <p>①翌日も門のところで当番の横に立ち、自分からあいさつする子どももいる。</p>	<p>②<u>すすんであいさつをする姿を認め、あいさつをする心地よさに共感していく。</u></p>

重視する内容 **こころざし教育**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- あいさつの心地よさを感じられるように、保育者自身がモデルになったり、あいさつする姿を認めたりする。
- 3歳児、4歳児が5歳児の姿を見ることで5歳児へのあこがれの気持ちをもてるようにする。

◆小学校につながる点

- 次第に身近な人だけでなく、園にいらしたお客様や、地域の方々などにもすすんであいさつできるように促していく。身近な人とあいさつを交わす心地よさは、生活の中で繰り返し経験していくことで身に付き、実践できることにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

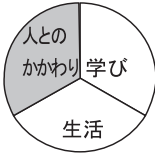
こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 こころざし教育 (例)

「お兄さんお姉さんのようになりたいなあ」

5歳児 7月～9月

《ねらい》

○児童・生徒、地域の方々とかかわり、あこがれの気持ちをもつ。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

活動1

- ◎園で職場体験をしている中学生に親しみをもってかかわる。
- ◎中学生のすばらしさを実感し、あこがれの気持ちをもつ。

活動2

- ◎小学校5年生の運動会の練習を見せてもらい、あこがれの気持ちをもつ。

《活動1の概要》

【事前】・幼児に中学生が園に職場体験に来ることを伝え期待感をもたせる。

・中学生に幼児の発達の特徴や園での指導について話し、どのように接すればよいのかを伝えておく。保育に行かせるよう、「得意なこと」や「幼児には難しいが中学生はできること」を確認しておく。事前に大きな準備が必要がなく、中学生の負担にならないようなものにする。

【当日】・職場体験の中学生と一緒に遊ぶ。世話をしてもらう。

《環境》

・特技(サッカーや楽器演奏、水泳、柔道の受身、ダンス等)や高さ、力の強さ、たくましさを活かした活動(高いところに実った果実を取る、速く走る、深い穴を掘る、重いものを運ぶ等)などを中学生に見せてもらう機会をつくる。

《活動1の展開》

子どもの姿

保育者の援助・環境の再構成

下線は、経験させたい内容にかかわる援助

②中学生とあいさつをする。

①中学生を紹介し、3日間、園で一緒に過ごすことや先生の仕事について勉強するために来ていることを分かりやすく伝える。

③中学生と一緒に遊ぶ。

「○○を一緒にしよう。」と中学生の手を引き、遊びに誘う。

「○○して。」と自分のしてほしいことを中学生に要求し、甘える。

「これは、どうやってするの？」などの中学生の問いかけに答えている。

中学生のすることを興味深く見ている。

自分の思い通りに中学生を動かそうとしたり、乱暴な言葉で中学生に接している。

④中学生と幼児がかかわる様子をよく見て、互いにとってよい交流になるように働きかける。

中学生に幼児が助けてもらったときには、幼児のうれしさに共感し、一緒に中学生に感謝する。

何をしても受け入れてくれる、やさしい中学生の姿を保育者が具体的に言葉にし、幼児に伝えていく。

とまどいや甘えから、乱暴な態度が幼児に見られた時などは、中学生の思いに気付かせるとともに、してはいけないことは毅然と伝える。中学生には保育者のかかわりの様子を見せ、幼児へのかかわり方を知らせていく。

⑥中学生の姿に驚きじっと見ている。「すごいね。」「かっこいいね。」と言いつつ。

⑤昼食の前等にクラスで集まり、特技(例:サッカー、楽器演奏、水泳、柔道の受身、ダンス等)、高さや力を活かした活動(速く走る、ボールを遠くまで投げる等)など中学生だからこそできることを見せてもらう。

⑦中学生のすばらしさに幼児とともに驚き、感動に共感する。「大きくなったらみんなもできるよ。」と話し、自分の育ちを楽しみにしたり意欲をもったりできるようにする。

《活動2の概要》 ・小学校の運動会の練習を見に行き、幼児が見た感想を言う。 《環境》 【事前】 ・小学校との打ち合わせを行い、今後につながるような交流となる方法を検討する。 ・幼児に運動会の練習を見学することへの期待感が高まるような話をしておく。 【当日】 ・小学校の練習の後半の時間帯に合わせて見学する。 ・小学生の練習を妨げずに、姿がよく見える場所で見学する。 《活動2の展開》	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p style="text-align: center;">子どもの姿</p> <p>①5年生が練習をしている校庭に行き、保育者と一緒に並ぶ。あいさつをして5年生の練習を見学する。</p> <p>③5年生が「〇〇踊り」を踊っている様子を見る。「かっこいい。」「すごいね。」などつぶやく。</p> <p>⑥指名された幼児が「とてもかっこよかったです。」と言う。順次、指名された幼児が、「声がそろっていてすごい。」「ジャンプするところがかっこいい。」などと話す。</p>  <p>⑦お礼を言って、園にもどる。</p> <p>⑨保育室で5年生の踊りのまねをして、「こんなふうにかまっていたね。」「あそこもかっこよかったね。」「やってみようね。」など身体を動かしている。</p>	<p>②5年生の担任が練習のきりのよいところで、幼児が見学に来たことを児童、幼児に話す。</p> <p>④幼児の言葉を受け止め、「声がそろっているね。」「真剣にやっているね。」と<u>児童の迫力ある姿を保育者も言葉にする。</u></p> <p>⑤練習を見ての感想を幼児に聞く。「どんなところがかっこよかったですか？」など<u>具体的な姿を引き出していく。</u>「同じこと思った人はいるかな？」などと発言した幼児の思いをクラス全体に広げていく。</p>  <p>⑧幼児と一緒に礼を言って、園にもどる。</p> <p>⑩5年生が練習する姿を間近に見た感動を表現しようとす<u>る姿を認め、幼児の気持ちに共感する。5年生への親しみやあこがれの気持ちをもてるようにする。</u></p> <p>⑪この後、踊りの振り付けを教えてもらうなど、今後の活動につなげていくようにし、5年生へのあこがれの気持ちを育んでいく。</p>

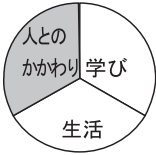
重視する内容 **こころざし教育**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 小学生、中学生、高校生、地域の方など幼児の周りの人のすばらしさを実感できるような体験を積み重ねていく。
- 活動の中で、児童・生徒の優しさやモデルとなる姿を言葉に表し、幼児が実感できるようにする。
- かかわり方については具体的な場面を通して伝え、児童・生徒、地域の方々の優しさやそれらの方々へのあこがれの気持ちが育つようにする。

◆小学校につながる点

- 優しくしてもらった経験は信頼感につながるとともに、小学校入学時には上級生が頼りになる存在となり、安心感につながる。
- 児童・生徒の姿がモデルとなり、自分もそうしたい、そうなりたいというあこがれにつながる。



重視する内容

こころざし教育 (例)

「もうすぐ修了（卒園）だね」

5歳児 1～2月

《ねらい》

- 1年生になることに喜びや期待をもち、自信をもって行動する。
- 自分の成長を感じ、周りの人への感謝の気持ちをもつ。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎友達が自分のよいところに気付き、話してくれることを喜ぶ。
- ◎自分のよいところに気付き、自分に自信をもち、小学校生活に期待をもつ。
- ◎友達のよいところに気付き、伝え、認め合う喜びやクラスの友達とのつながりを感じる。

《活動の概要》

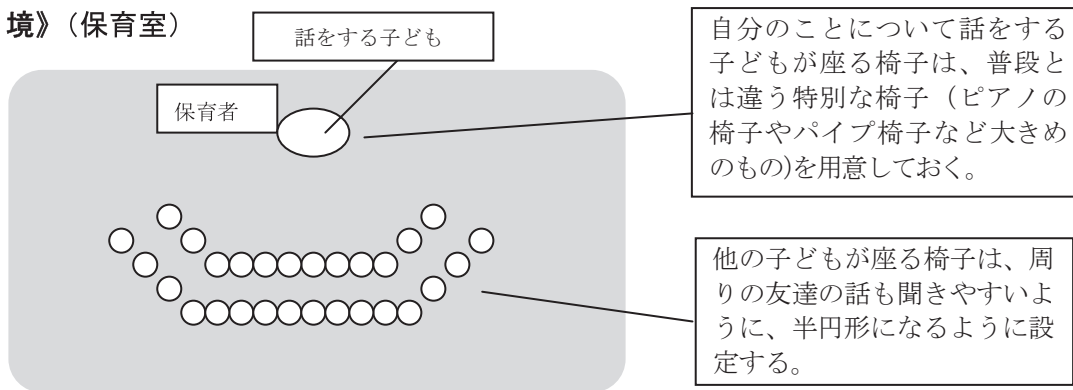
【事前】

- ・明日、前で話をしてもらおう子どもの名前を伝え、その子どもについて話したいことを考えてこられるようにする。
- ・前で話をしてもらおう子どもは一日に2名程度にする。

【当日】

- ・修了（卒園）に向けて、毎日降園時に「友達の好きなどころ。」「一緒に遊んで楽しかったこと、うれしかったこと。」を話す。

《環境》（保育室）



成長を感じる機会や周りの人に感謝する機会を作しましょう

修了（卒園）に向けて、園生活を思い返す、将来のことを考える、自分の成長を実感する、周りの人に感謝する、ということを様々な活動の中で経験できるようにしましょう。

- ・園で楽しかったことや大きくなったらなりたいたいのものを、絵や言葉で表現する。修了式・修了お祝い会・卒園式での「お別れの言葉」に取り入れる。
- ・「お別れ会」などで自分の得意なことを異年齢児に見てもらおう。
- ・園に渡す記念品を作る。(例)カバー類、整理箱 牛乳パックで作ったソファ、クラス表示
- ・保護者への感謝の気持ちを手紙や絵などで伝える。
- ・異年齢児へのプレゼントを作る。(例)カレンダー、衝立、整理箱

※これらをまとめ、「修了（卒園）文集」を作ることよいでしょう。

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>②降園前に椅子をもって保育者の前に集まる。 自分のことを話してもらおうA児は、保育者の横の大きめのイスに座る。</p> <p>④A児の「好きなどころ。」「一緒遊んで楽しかったこと。」「うれしかったこと。」など、話したいことがある幼児は手を挙げる。</p> <p>⑥保育者に名前を呼ばれたB児は「Aちゃんは、私が転んだ時、先生を呼びに言ってくれました。」と話す。</p> <p>⑧「私が転んだ時は大丈夫って言ってくれた。」「Cちゃんも(心配して)、そばにいてくれたよね。」と他の子どももつぶやく。</p> <p>⑩D児は、友達が話している時にも途中で「はい！はい！」と手を挙げる。</p> <p>⑫E児は友達が話したことと同じことを話す。</p> <p>⑭E児は保育者の言葉を聞き、「モルモットを抱っこできない時、Aちゃんがだっこしてくれました。」と当番の時の話をする。</p> <p>⑯A児も友達の話を聞いて感じたことを話す。</p> <p>⑰A児はうれしそうにならず。</p>	<p>①朝から「Aちゃんのすてきなところいっぱい見つけてきた？」「先生もAちゃんと△△して楽しかったな。あの時ね・・・。」などと話し、子どもの期待感を高める。</p> <p>③「先生もAちゃんとたくさん遊んだなあ。楽しいことがいっぱいあったよ。」「Aちゃん、どんなお話があるか、楽しみだね。」などとA児の気持ちに共感する。</p> <p>⑤順番に話せるように、保育者に名前を呼ばれた子どもは立ち上がって話すことを伝える。<u>友達が話している間は静かに聞けるようにする。</u></p> <p>⑦B児の話に相槌をうち、「そうなんだ。Aちゃん、優しいんだね。」などとB児の話に共感する。</p> <p>⑨「へえ、Cちゃんも心配してくれてたんだ。〇〇組にはやさしいお友達がたくさんいるんだね。」と認め、A児だけでなくクラスみんなで認め合う雰囲気を大事にする。</p> <p>⑪『「はい』は1回だけでいいよ。話したいことはわかるからね。』とD児の気持ちを受け止める。</p> <p>⑬「Eちゃんもそう思ったんだ。」などと受け止めつつ、「Eちゃん、Aちゃんと同じ生活グループだよ。当番の時、モルモットを抱っこできなくて困ったことあったよね。」と新たな気付きがうまれるような言葉掛けをする。</p> <p>⑮友達の言葉を聞いて感じたことやもっと言って欲しかったことについて話すようにA児に投げかける。</p> <p>⑰「こんなにすてきなAちゃんは、もうすぐにも1年生になれるね。」と話す。</p>

重視する内容 **こころざし教育**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 一人一人のよさや、園生活で頑張ってきたことを友達から聞くことで、自分がクラスにおいて大事な存在であるということを実感し、自信をもって園を修了(卒園)できるようにする。
- 自分の将来について考えることで、大きくなった喜びを感じ、今までお世話になった人への感謝の気持ちをもてるようにしていく。

◆小学校につながる点、

- 友達のよいところをとらえる経験をすることで、小学校のように多人数とかかわる中でも周りの他者を尊重し、出会う友達のよいところもとらえられることにつながる。
- 自分のよいところに気付き、自分に自信をもつことは、意欲を高め、主体的に物事に取り組んでいくことにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

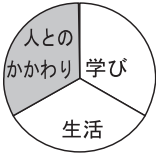
こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容

こころざし教育 (例)

5歳児

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

こころざし教育を進めるにあたって、以下の3つの観点から、指導していきましょう。

◎…経験させたい内容 …援助のポイント …例

《人を敬う心》

◎地域の方と喜んでかかわり、親しみをもつ(10~3月)

◎(自分の成長を感じ)周りのひとへの感謝の気持ちをもつ(1~3月)

①子どもの内面の理解

子どもの行動や表情から、内面を理解する。相手に対して優しい気持ちをもつには、まず、自分自身が満たされていることが必要である。人間関係をよくみて援助する。

②様々な立場

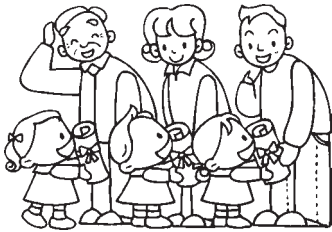
リードする・リードされる、手伝う・手伝ってもらい、教える・教えられるなど様々な立場を経験できるようにする。

③周りの人への関心

家族、保育士・教員、友達、地域の方など身の回りの人のしていることやその方の気持ちなどに折に触れ気付かせる。

④気持ちの表現

感謝の気持ちを感じられるようにするとともに、それを表現する体験を重ねる。



《一例として…》 ①~④は環境・援助に対応

- ②園内の異年齢交流や小学生・中学生・地域の方など様々な方との交流を図る。
- ③「この誕生会の準備は誰がしてくれたのかな？」等、してもらったことや相手の気持ちを子どもたちに考えさせたり、保育者が言葉にしたりする。
- ⑤一緒に遊んでくれた小学生にお礼の絵手紙を書く。

《身に付けさせたい言葉・態度》

◎元気よく、あいさつや返事をする(10~3月)

※重視する事項「生活習慣・学習習慣の共通化・段階化」(214ページ)を参照。



《人の役に立つうれしさ・やりがい》

- ◎生活や遊びの中で、人の役にたったという思いを味わう。
- ◎1年生になることに喜びや期待をもち、自信をもって行動する。
- ◎自分の成長を感じ、周りの人への感謝の気持ちをもつ。 (1～3月)



①役割を果たす経験

当番活動や年少・年中児へのかかわりの中で、一人一人が役割をきちんと果たせるようにする。全体・グループとともに個の役割を押さえる。

②成長を感じる機会

自分の成長を具体的に実感できるようにする。何かができるようになったということだけではなく、心の成長も感じられるよう言葉を掛けていく。友達の成長も喜び合うようにする。喜びに共感する。

③感謝の気持ち

家族、保育士・教員、友達、地域の方など身の回りの人のしていることやその方の気持ちなどに折に触れ気付かせる。自分の成長を感じるとともに周りの人への感謝の気持ちをもてるようにする。

④小学校・家庭との連携

小学校の生活や小学生とのかかわりを通して、入学に期待をもてるようにする。保護者の悩みを聞いたり、入学に向けての情報を伝えたりし、保護者自身も安心して入学を迎えられるようにする。

《一例として…》 ①～④は環境・援助に対応

- ①飼育物の世話や当番活動の引継ぎ、お休み(欠席者)調べ、修了記念製作、修了式でのお別れの言葉など
- ②赤ちゃんの頃の写真をもってきてもらう、生まれた時や赤ちゃんの頃の話子どもにしてもらう等の活動を取り入れる。

○エピソード

もうすぐ修了し小学校へ行くという話から、自分たちがお兄さん、お姉さんになったと思う時はどんな時かと投げかける。保育士・教員自身が子どもたちの成長を感じた時の話をする。子どもが「今まで飛べなかったなわとびが跳べた時」「〇〇ちゃんと一緒に飼育当番をちゃんとできた」などと発言する。(②)発言をみんなでも共有できるよう、また、刺激となるよう聞いている子どもたちに広げていく。(②)子どもの発言を認めながらも、技能的なことだけではなく心情面の育ちにも気付かせる。全員が自分の成長を振り返れるよう、挙手しない子どもも指名する。自分で発言が出てこなかったら、他の子どもに投げかけ、友達がその子どもの成長(よさ)を感じた時を発表させる。子どもは「〇〇ちゃんは、折り紙の折り方を優しく教えてくれた。」と友達のことを話す。(②)一人一人が自分の成長を感じるとともに、友達の成長も感じ、喜び合えるようにする。(③)大きくなったのは自分一人の力だけではないことに気付かせ、家族や地域の方への感謝の気持ちをもたせる。子どもから「おかあさんが、いつもご飯つくってくれる」「□□さんが、道路を渡るとき危なくないように見てくれた」などの意見が出る。(②)皆の成長を喜び、これからの成長が楽しみと話す。

- ④学校探検や体験授業など小学校との連携を深める。
- ④家族とともに入学を楽しみにできるように、保護者会などで小学校の生活や入学に向けての子どもへの接し方等具体的に伝えていく。学校公開への参加を呼びかける。
- ④保護者自身が子どもの頃に抱いた小学生へのあこがれなども話し、子どもと期待感を共有する姿勢を示す。

《小学校につながる点》

○人を敬い感謝することや人の役に立つ嬉しさ、やりがいを感じることは、自分や友達の成長への気付きと一人一人の自信につながっていく。「こうありがたい」というこころざしは、学びへの意欲を高めていく。